

庭のミズナラについていたゼフ卵

- 我が家のミズナラを切り倒しました。その枝についていたゼフ卵を調べたので報告します。





伐採したミズナラは約25年前に幼木を植え込んだもの。樹木の成長は思った以上に早いもので、樹高は10m以上、南向きに枝葉を大きく広げ、それがBSアンテナの電波障害を起こしたり、眺望を妨げるということで、伐倒することを決断しました。

かなりの大木でうまく切り倒すのは一抹の不安はありましたが、大きな枝が南向きに傾いているので、そちらの空き地の方に倒れるだろうとの予測の元、雪が少なくなり作業のしやすくなった3月31日、決行しました。



過去に切断した面に合わせて、倒れていく方向に向け、チェーンソーで「受け口」をつくります。



反対の方から「追い口」を入れていくと、すぐに予定の方向にうまく倒れていきました。



さて、これからゼフ卵を探します。妻も手伝ってくれています。ピン
トが合っていないが矢印はジョウザンミドリシジミの卵です。



枝を切り分けています。矢印は妻が集めたゼフ卵がついた枝。

翌日、ゼフ卵がもったいないので、倒した枝を徹底的に調べつくすことにしました。



まず、枝ばさみで切れる、約1.5cmくらいの太さの枝に分解しました。



そこについている冬芽周辺をなめまわすように見てゼフ卵を探します。



ジョウザンミドリシジミがコンスタントに見つかり、ときどきアイノミドリ(左)が混じります。

普段目にしないゼフ卵も見つかり、ちょっとびっくりでした。



ミズイロオナガシジミ

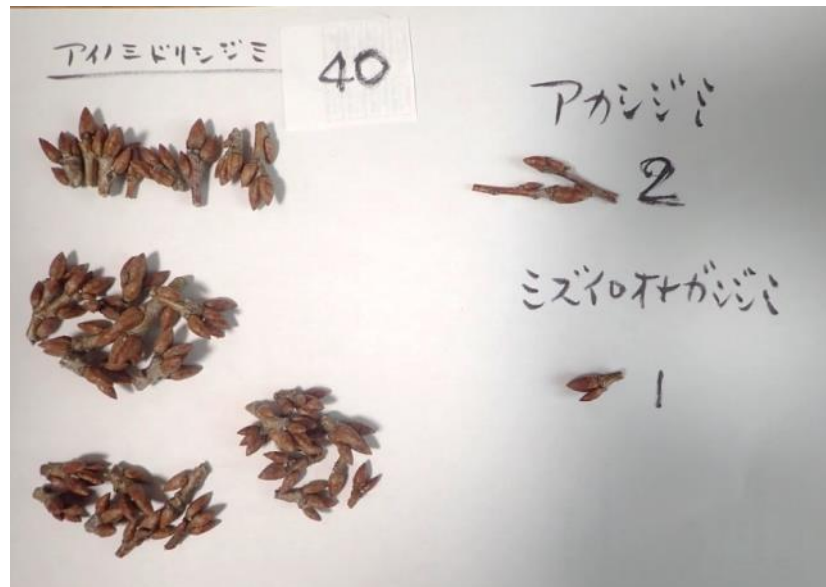
アカシジミ

回収した卵

(妻が回収した分を忘れていました)



ジョウザンミドリシジミ



アイノミドリシジミ・アカシジミ
ミズイロオナガシジミ

集計結果

切り分けた枝は159本です。

その枝についていた冬芽の数は平均60個です。

ということで冬芽の総数は $159 \times 60 = 9540$ 個となります。

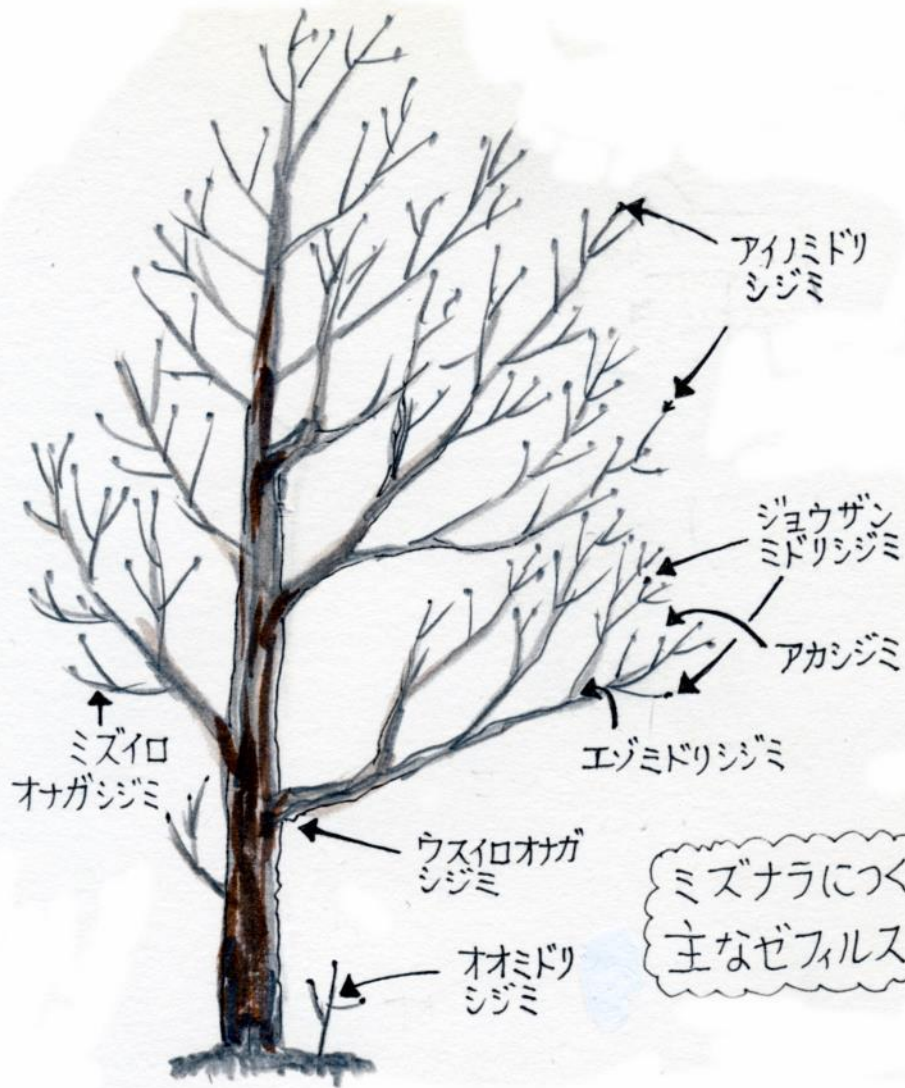
(見るのにつかれました)

種	産付数	産付率 (個数／冬芽の総数)
ジョウザンミドリシジミ	144個	1.5%
アイノミドリシジミ	45個	0.47%
アカシジミ	2個	0.02%
ミズイロオナガシジミ	1個	0.01%

ジョウザンミドリが一番多く冬芽を100個くらい見れば1個は見つかるということです。

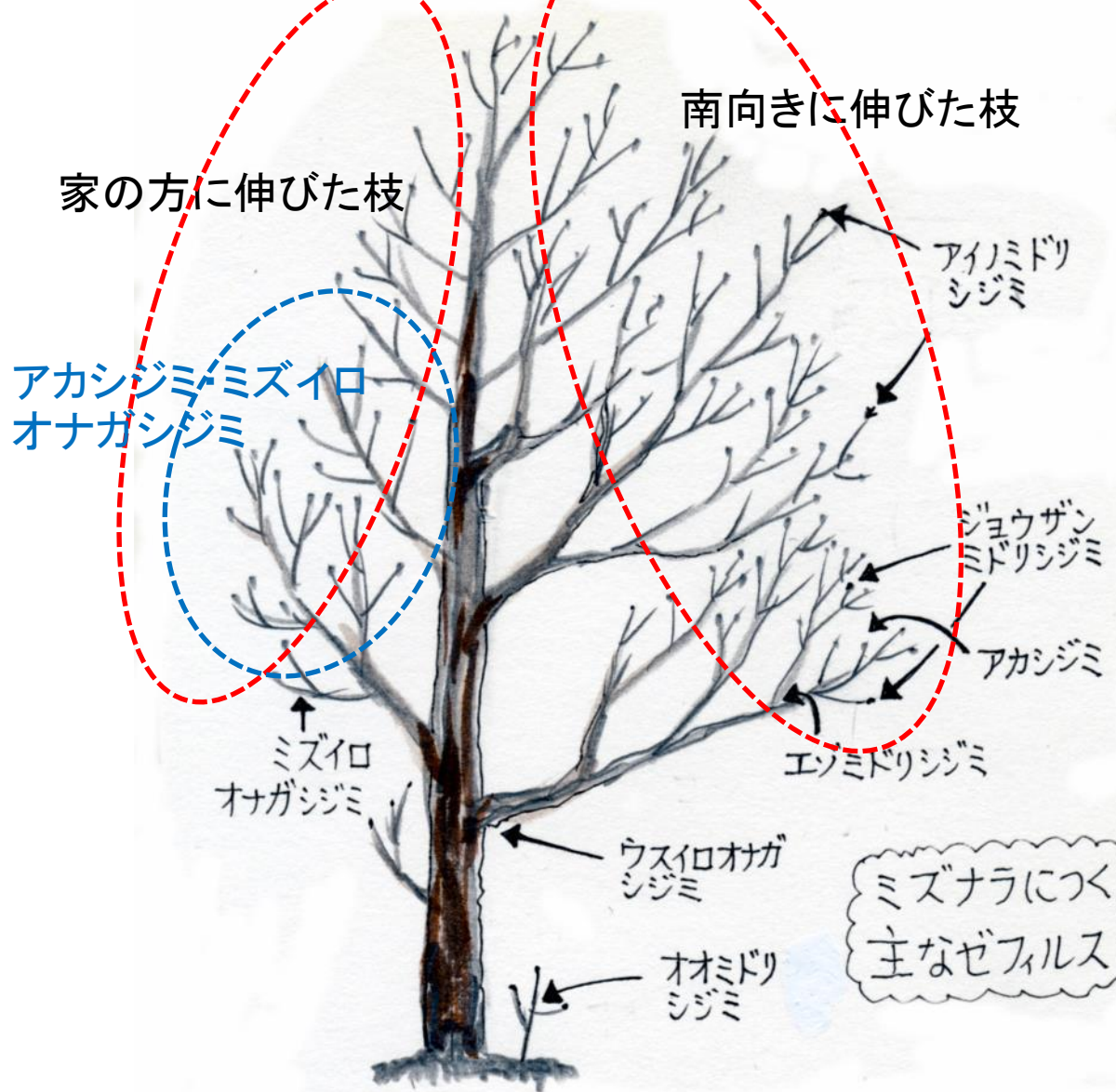
アイノは200個以上見て1個見つかるという産付状況でした。

産付位置について



左の図は私たちのフィールド図鑑の「楽しい生態観察のすすめ～⑩冬のゼフィルス卵さがし」の中の図です。ミズナラの木のどの辺に卵がついているかを示したものです。ジョウザンミドリシジミは下の方までついていて、アイノミドリシジミはそれよりも上部の枝先についているように描きました。しかし、実はこの図の上の方(樹冠部)はごまかされています。樹冠部まで普通見ることができないからです。今回は1本切り倒したので、その辺の冬芽も調べることができました。切り分けた枝の位置を詳細に分類したわけではありませんが、今回見つかった卵の位置はおおよそ次のようになりました。

ジョウザンミドリシジミ・アイノミドリシジミ



ジョウザンミドリシジミもアイノミドリシジミも、とりわけ産付位置が異なることはなく、枝先全体に広く分散してついでいました。(左の赤点線部)

アカシジミとミズイロオナガシジミは南向きの太枝からではなく家の方に延びた中くらいの高さからみつけられました。(図の青点線部)しかしこれは見つけた数が少ないので何とも言えません。

ジョウザンとアイノについては図鑑に載せた図は少し手直した方がいいかもしれません。

我が家のゼフ卵について

我が家のゼフィルスの状況ですが、毎年確実に卵が見つかるのがジョウザンミドリシジミ、アイノミドリシジミ、それにオニグルミにつくオナガシジミです。ところが成虫の目撃の方はどうかというと、非常にまれです。ジョウザンミドリシジミは8月頃♀雌を見かけます。オナガシジミも稀に見かけますがアイノミドリシジミは見たことはありません。アカシジミ、ミズイロオナガシジミも見たことはありません。ジョウザンミドリシジミは以前物置の中から蛹を見つけたこともあり、産付数から考えてもおそらく我が家で発生していると思います。我が家で観察できたゼフは下記のとおりです。

ウラゴマダラシジミ・ムモンアカシジミ・**アカシジミ**・**オナガシジミ**・**ミズイロオナガシジミ**・**アカシジミ**・ミドリシジミ・**メスアカミドリシジミ**・**アイノミドリシジミ**・**オオミドリシジミ**・**ジョウザンミドリシジミ**・**エゾミドリシジミ**(赤字は卵が見つかったもの)

これらのゼフは大方が雌で、産地を拡大するための分散飛翔で訪れたものと考えていいと思います。赤で示した種はそのときに産卵していったものでしょう。産卵シーンはなかなか観察できませんが、母蝶は生れた地を離れ頑張って飛び回っているのですね。さて、今年はどうなゼフがやってくるのか楽しみですし、是非産卵シーンを撮影したいものです。



2016・7・14

エゾミドリシジミの♀
(これは発生したものかも)

−25°Cの厳冬に耐えるジョウザンミドリシジミの卵
(倒した木下の方についているもの 2022年2月12日)



以上 By T.Nagamori